

平成27年度戦略研究 「健康医療分野における大規模データの分析及び
基盤整備に関する研究」の選考結果について

1. 経緯

本研究課題については、平成26年7月18日に開催された当部会において公募要項の承認を頂き、平成26年7月22日から8月22日まで研究課題の公募を行った。

一次選考は、応募があった31課題について選考小委員会での評価とコメントを基に、戦略研究企画・調査専門検討会にて審議を行い、6課題を選定した。

2. 二次選考(最終選考)について

二次選考(最終選考)は、4月16日に開催された戦略研究企画・調査専門検討会にて審議を行った。選定については、まず研究代表者から提出された研究実施計画書(フル・プロトコール)を踏まえて、検討会委員及び外部有識者が事前に書面審査を行った。書面審査は、点数及びコメントで行った。

評価委員が本研究に分担者、あるいは協力者として参画する予定である場合、または同一大学に所属している場合には評価対象者から除外した。

戦略研究企画・調査専門検討会では、この評価を踏まえて審議を行い、別添の4課題を選定した。

3. 戦略研究企画・調査専門検討会でのフォローアップについて

最終選考で選定された4課題については、6月29日に開催された第46回 戦略研究企画・調査専門検討会で評価委員からのコメント等を踏まえた研究計画についてプレゼンテーションが行われた。

今後は、年度末に中間評価を行う予定。

平成 27 年度「健康医療分野のデータベースを用いた戦略研究」採択課題について

課題名	研究代表者	研究期間（原則）	研究目的	交付基準額
大規模データベースを用いた運動器疾患・呼吸器疾患・がん・脳卒中等の臨床疫学・経済分析	康永 秀生 (東京大学大学院医学系研究科教授)	2 年間	大規模保健医療データベースを用いて、以下の網羅的・包括的な分析を行うことを目的とする。 (1) 個々の医療技術の効果と費用の分析 (2) 医療サービス提供の量・質および効率性に関する分析	32,000,000 円 (うち間接経費 4,174,000 円)
高齢者医療の適正化推進に向けたエビデンス診療ギャップの解明－京都大学オンサイトセンターにおけるナショナル・データベース (NDB) の活用	中山 健夫 (京都大学大学院医学研究科教授)	2 年間	National Database (NDB) をはじめとする複数の既存データベースを利用し、共通のストラテジーにより 3 つの個別テーマおよび包括的テーマのサリサーチエクスチョンを検討する観察研究である。また、医療経済評価を実施する。さらに、データベース間の相互参照によるバリデーション研究を実施する。	33,000,000 円 (うち間接経費 4,304,000 円)
地域包括ケア実現のためのヘルスサービスマテリアル二次データ活用システム構築による多角的エビデンス創出拠点－	田宮 菜奈子 (筑波大学医学医療系ヘルスサービスマテリアル分野教授)	2 年間	地域包括ケアのための効果的サービス提供のあり方を明らかにする。そのために研究等の基盤を整備し、地域包括ケアのために社会実装を行う。	30,000,000 円 (うち間接経費 3,913,000 円)
レセプト情報・特定健診等情報データベースを利用した医療需要の把握・整理・予測分析および超高速レセプトビッグデータ解析基盤の整備	満武 巨裕 (医療経済研究機構 研究副部長)	1 年間	超高速レセプトビッグデータ解析基盤を利用し、レセプト情報・特定健診等情報データベースの全データ、及び保険者から申請者らが収集した 500 万人規模の医療・介護データを活用し、医療・介護制度の質的向上を目指した分析と低減を行う。	5,000,000 円 (うち間接経費 652,000 円)

戦略研究企画・調査専門検討会委員名簿

(50音順 敬称略)

川上 浩司 京都大学大学院医学研究科教授

黒川 清 政策研究大学院大学教授

真田 弘美 東京大学医学系研究科教授

津村 和大 川崎市立川崎病院内科医長・臨床研究支援担当課長

永井 良三 自治医科大学学長

柳川 堯 久留米大学バイオ統計センター教授

吉田 裕明 特定非営利活動法人 日本医療政策機構副代表理事